

## 「人と人のつながりから」

副校長 亀田 泰紀

暦の上ではまもなく春を迎えますが、まだまだ気温の低い日が続いています。校庭が寒さのために凍ってしまうときもありますが、子どもたちは体育やリフレの時間になると、寒さに負けず校庭で元気いっぱい活動しています。陽の光を全身で浴び、思いきり体を動かすことで、寒さや病気に負けない、健康な体をつくってほしいです。

先日、6年生の卒業文集の原稿を見る機会に恵まれました。6年間の自分の成長を誠実に振り返った、どの作文も読んでいて心があたたかくなる、素晴らしい内容の作文でした。

文集の中で、多くの子どもが自分の成長できたきっかけとして挙げていたものが二つあります。一つは「友達の存在」です。「衝突したことが、自分の言動を見直すきっかけになった。」「相手の気持ちを考えることの大切さを学んだ。」「そばで支えてくれる人のありがたさが分かった。」など、自分にはない考えや価値観に触れることで人としての幅が広がるとともに、他者と協力することの大切さやすばらしさを友達の存在から学んでいました。文集にはそんな友達に対する感謝の思いがたくさん綴られています。



もう一つは「役割」です。役割には、委員会の委員長やクラブの部長、スポーツフェスティバルの応援団や演技の習得における師匠と弟子の関係、なかま（たてわり）活動の運営、実行委員など様々なものがあります。委員長としてどう委員会をリードしていくか、先輩から受け継いだ伝統を下の学年にどう伝えていくか、なかまタイムをどう盛り上げていくかなど、その種類や場面によって直面する問題は異なります。そんな中、共通していたのは、「与えられた役割を果たしていこうと努力や工夫をしていく中で新たな気づきや発見があり、自分の成長の機会につながった」と多くの子どもが感じていることです。実践的な活動の中で、主体性や責任感、相手意識が身に付いたと振り返っていました。

もう一つは「役割」です。役割には、委員会の委員長やクラブの部長、スポーツフェスティバルの応援団や演技の習得における師匠と弟子の関係、なかま（たてわり）活動の運営、実行委員など様々なものがあります。委員長としてどう委員会をリードしていくか、先輩から受け継いだ伝統を下の学年にどう伝えていくか、なかまタイムをどう盛り上げていくかなど、その種類や場面によって直面する問題は異なります。そんな中、共通していたのは、「与えられた役割を果たしていこうと努力や工夫をしていく中で新たな気づきや発見があり、自分の成長の機会につながった」と多くの子どもが感じていることです。実践的な活動の中で、主体性や責任感、相手意識が身に付いたと振り返っていました。

コロナ禍の中、多くの学校において、学校行事をはじめとする特別活動が中止や縮小されている現状があります。しかし、集団の中で役割を分担しながら協力し合うことの大切さや、よりよい問題解決に向けて他者と合意形成し実践していくことの大切さを学ぶことは、子どもたちの成長において欠くことのできない教育活動であると考えます。子どもたちが身近な社会である学校において、人と人のつながりから得る学びは、他に代わりのきかない、かけがえのないものであると言えるのではないのでしょうか。コロナ禍が続き、人と人の関係性が希薄になりがちな現在の状況ですが、子どもたちにはこれからも人との出会いを大切に、切磋琢磨しながら自分の生き方についての考えを深め、自己目標の実現に向け、力強く歩んでいってほしいです。教職員一同、子どもたちの成長をこれからも全力で支えていきます。

今年度も残すところ2ヶ月となりました。学習や生活のまとめの時期であり、また、次の学年への準備をする大切な時期となります。本校の教育活動へのあたたかいご支援とご協力を引き続きお願いいたします。